群教セ	G02 － 02
	平29.265集
	社会－小

資料から読み取ったことを基に、自分の考えを表現できる児童の育成

――根拠を明確にして伝えるための社会科ノート指導の工夫を通して――

特別研修員　軽部　幸一

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

平成28年12月の中央教育審議会答申では、「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり、関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分」とあり、資料を読み取るだけでなく、読み取った資料を活用し、それを基に自分なりの考えを持ち、表現できるようになることが求められている。また、はばたく群馬の指導プランには、群馬県の社会科の課題として「資料から情報を読み取り、活用すること」「人々の工夫や努力の意義を考えること」とある。

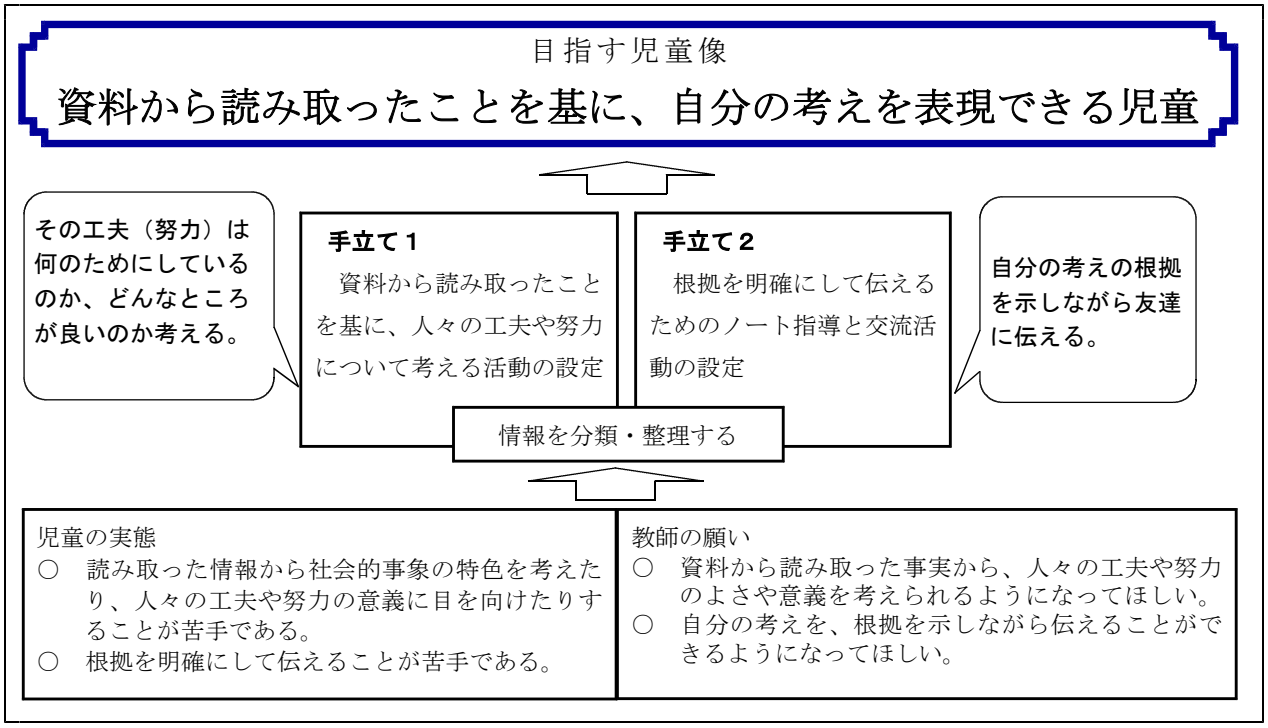
所属校の児童の多くは、一つ一つの資料が表す内容を読み取ることはできる。しかし、読み取った情報から社会的事象の特色を考えたり、人々の工夫や努力の意義に目を向けたりすることは苦手な児童が多い。また、根拠を明確にして伝えることも苦手な児童が多い。

そこで、資料から読み取った事実を基に、様々な産業で働く人々の工夫や努力について考察する活動を設定し、自分の意見をノートに記述する活動を設定することとした。その際、必ずその意見の基となった資料から読み取った事実も併せて記述し、それを示しながら友達に伝えるようにする。

これにより、資料一つ一つの単なる読み取りではなく、読み取った情報から社会的事象の特色を考えたり、人々の工夫や努力の意義に目を向けることができ、根拠を明確にして自分の考えを表現できる児童を育成できると考え、本研究のテーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

本研究では、資料から読み取った事実から、人々の工夫や努力について考える活動を設定することにした。また、自分の考えの根拠となる事実をはっきり伝えることができるように、ノート指導を工夫することにした。

提案する手立て

１　資料から読み取ったことを基に、人々の工夫や努力について考える活動の設定

資料から読み取ったことを基に、人々の工夫や努力について考えるため、大切にしていることや何のための工夫かを短い文章やキーワードで表す活動を設定する。

２　根拠を明確にして伝えるためのノート指導と交流活動の設定

手立て１での自分の考えは、何を基に考えたのか、参考とした事実をノートに記述する。それを活用しながら、根拠を明確にして友達と意見交流する。

手立て１や２が円滑に行えるようにするため、手立て１の前に教科書や資料集から読み取ったことをクラス全体で分類・整理する。

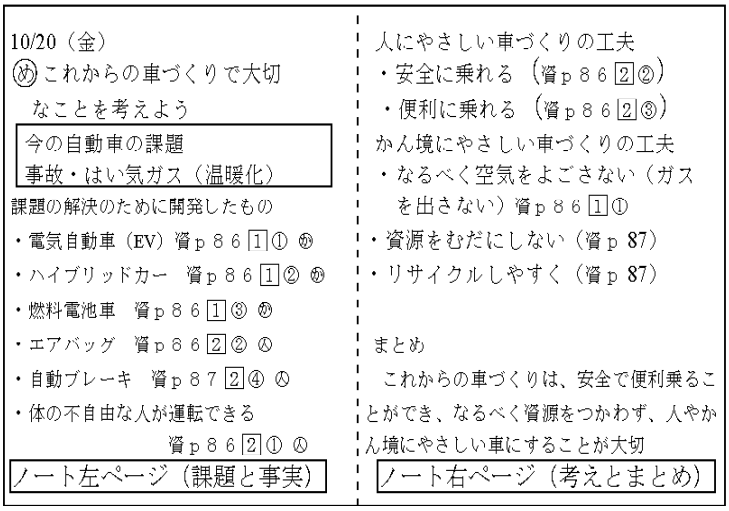


図１　ノートの例

左の図１は、児童のノートの記述例である。ノートの左ページには、本時のめあてと、教科書や資料集を調べて分かった事実を書き、それを分類・整理する。

左の例では、㋕は環境にやさしい車づくりのための工夫や努力、㋩　は人にやさしい車づくりのための工夫や努力を示す。

ノートの右ページには、左ページの事実を参考にしながら自分の考えを書き、最後に友達との意見交流を踏まえた本時のまとめやめあてに対する振り返りを書く。右ページと左ページに分けて書くこで児童が事実と自分の考えを区別ができるようにする。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　人々の工夫や努力がどんな工夫なのか、何を大切にしているかなどについて考える活動を設定したことは、資料の単なる読み取りに終わらず、人々の工夫や努力の意義に目を向けさせるために有効だった。

○　ほとんどの児童が、自分の考えを友達に伝える時に、なぜそう思ったのか、根拠となる資料を示しながら伝えることができるようになった。

○　ノートに教科書等のページや資料の番号が記入してあるので、教科書等を使って振り返りが容易になった。

２　課題

○　資料の分類・整理に時間がかかってしまい、考える時間や考えた後の交流が短くなる傾向があるので、付箋紙を活用したり、資料の読み取りを事前にさせておいたりするなどの手立てが必要である。

○　ノートに記述した資料の番号を伝えるのではなく、教科書や資料集の写真などを直接見せながら発表している児童もいた。ノートを活用して発表する形式をはっきり示し、徹底する必要があった。

実践例

１　単元名　　自動車をつくる工業　（第５学年・２学期）

２　本単元について

本単元は、小学校学習指導要領社会科第５学年の内容（３）の「ウ　工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」を受けて設定するものである。本単元では、自動車工業の事例を取り上げ、我が国の工業生産に従事している人々が、消費者の多様な需要に応え、環境に配慮しながら様々な工夫や努力をしていることを具体的に調べる。人々の工夫や努力が何のためのものなのか、なぜそのような工夫や努力が求められるようになったのか、その工夫や努力の結果としてどのような変化が起こったのか、などについて、教科書や資料集の資料や記述から読み取った事実を基に考察させることで、本研究で目指す児童像の実現につながる。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	自動車をつくる工業を通して、我が国の工業生産について意欲的に調べ、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを理解するとともに、そこに従事している人々の工夫や努力について考える。	
評価規準	関心・意欲・態度	工業生産の様子に関心を持ち、自動車をつくる工業の過程や製品の販売、輸送に見られる工夫などについて意欲的に調べようとしている。
	思考・判断・表現	工業生産に従事している人々が様々な工夫や努力をして国民生活を支える役割を果たしていること、我が国の工業生産の発展にはこれらの工夫や努力が欠かせないことについて考え、適切に表現している。
	観察・資料活用の技能	工業生産に従事している人々が、製造の過程や製品の輸送などにおいて工夫や努力していることを資料から読み取ることができる。
	知識・理解	工業生産に従事している人々が、消費者や社会の多様なニーズに応え、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第１時	・なぜ日本の自動車が世界で売れているのか（人気なのか）について自分なりの予想を立て、伝え合う。
課題追究	第２時	・自動車工場の立地の様子について調べる。
	第３時	・組み立て工場の生産工程や働く人々の工夫について調べる。
	第４時	・組み立て工場で働く人々の、より良い自動車を効率よくつくるための工夫について考える。
	第５時	・組み立て工場と関連工場との関係を考える。
	第６時	・輸送する際の工夫や努力、現地生産の良さを考える。
	第７時	・これからの自動車づくりで大切なことを考える。（本時）
まとめ	第８時	・今まで学習したことを基に、日本の自動車づくりの良い点を短い文章にまとめる。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は全８時間計画の第７時に当たる。第１時では、単元全体の課題を設定し、それに基づき第２時から第６時までは、工場の立地や効率の良い生産の仕組みなどについて学習した。本時では、自動車会社の様々な取組から、これからの自動車づくりで大切なことを考えることをめあてとした。そこで、以下のように手立てを具体化した。

手立て１

これからの自動車づくりで大切なことについて、人にやさしい車づくりのための工夫、環境にやさしい車づくりのための工夫に分け、調べたことを基に、それぞれ、何を大切にしているのか、何のためな

の工夫なのかを考察させ、短い文章（キーセンテンス）にまとめる。

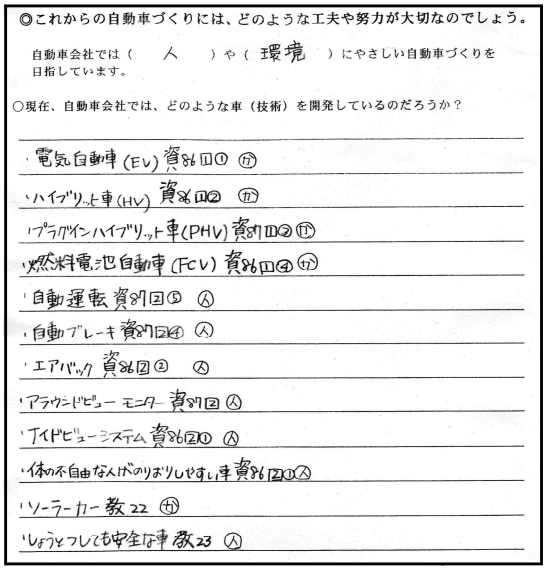
手立て２
自分が考えた、人にやさしい車づくりのための工夫、環境にやさしい車づくりのための工夫が、何を大切にしているのか、何のための工夫なのかを表す短い文章と、考える基となった教科書や資料集の資料番号や文章の記述箇所がわかるようノートに記述し、それを活用して交流する。

４　授業の実際

本時では、現在の自動車社会が抱える問題として、事故で死亡したりけがをしたりする人がいること、排気ガスで地球温暖化や大気汚染につながることについて確認した。次に、これからの自動車づくりとして、人にやさしい車づくり、環境にやさしい車づくりそれぞれで、自動車会社がどのような車や技術を開発しているのか、教科書や資料集を基に確認した。そして、調べたことを基に、「人にやさしい車づくり」「環境にやさしい車づくり」の工夫について、短い文章を考え、伝え合う活動を設定した。

(1)　手立て１について

児童は、教科書や資料集から読み取った資料を分類・整理したノートと教科書、資料集の写真資料や解説、本文の記述を確認しながら、自動車会社がどのような工夫をして開発しているのかを考え、短い文章に書いていた（図３）。１学期の授業では、教科書や資料集に記載されていない内容を書いている児童や、自分が考えた文章がどの資料を基にして考えたのかを説明できない児童も複数見られたが、今回の授業では、ほとんどの児童が、考えの根拠となった資料を意識しながら文章を書くことができていた。

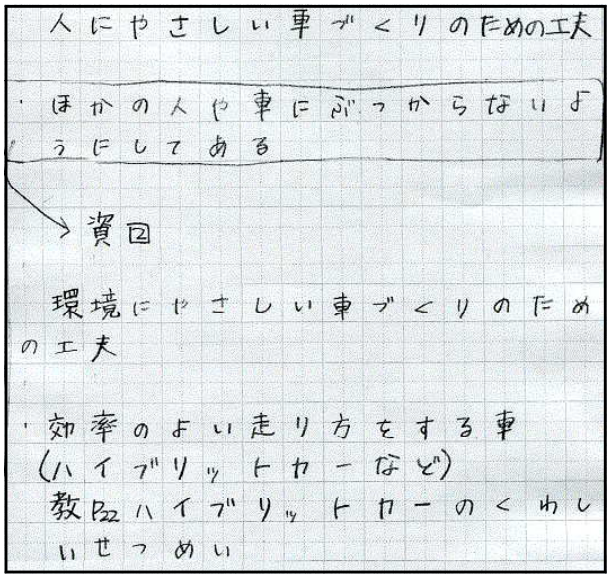

◎これからの自動車づくりには、どのような工夫や努力が大切なのでしょう。

自動車会社では（　人　）や（ 環境 ）にやさしい自動車づくりを目指しています。

○現在、自動車会社では、どのような車（技術）を開発しているのだろうか？

・電気自動車(EV) 資料集①　カ
・ハイブリッド車(HV) 資料集②　カ
・プラグインハイブリッド車(PHV) 資料集③　カ
・燃料電池自動車(FCV) 資料集④　カ
・自動運転 資料集⑤　A
・自動ブレーキ 資料集④　A
・エアバッグ 資料集⑤　A
・アラウンドビューモニター 資料集⑥　A
・アイドビューシステム 資料集⑥①　A
・体の不自由な人がのりおりしやすい車 資料集⑥①　A
・ソーラーカー 教22　カ
・しょうとつしても安全な車 教23　A

図２　調べたことを分類・整理したもの（ノート左ページ）


人にやさしい車づくりのための工夫

・ほかの人や車にぶつからないようにしてある

→資料

環境にやさしい車づくりのための工夫

・効率のよい走り方をする車（ハイブリットカーなど）
教P22 ハイブリットカーのくわしいせつめい

図３　基にした資料を明示して考えた文章（ノート右ページ）

(2)　手立て２について

ノート左ページには課題と事実を記入させた。本時では、今の自動車の課題として、事故が起こること、排気ガスによる温暖化が起こることなどの問題があることをクラス全体で確認して記述した。

そして、その課題の解決のために、自動車会社

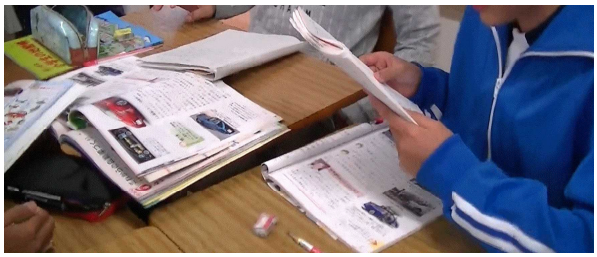


図４　交流活動の様子

が開発を進めている車や技術を資料から読み取り、環境にやさしい車づくりと人にやさしい車づくりのための工夫に分類・整理した（図２）。それを基にしてノート右ページには「考えとまとめ」を記入させた。左ページと右ページに分けて書かせることで、児童の考えが整理され、自分の考えをまとめる際に根拠となる資料をはっきり示すことができるようになった。ノートに自分の考えとともに根拠となった資料も書いてあるため、交流活動の際にも、自信を持って伝えることができるようになった（表１）。

表１　交流の様子（　〰〰 は児童の考えた短い文章。＿＿＿はその考えの根拠となる資料）

児童１	わたしが選んだ人にやさしい車づくりのための工夫や努力を表す言葉は、「安全が保たれる」です。この言葉にした理由は、教科書の資料③の写真を見て、実験を何度も繰り返していて、すごいなと思ったからです。車体がこわれても、人が乗っている部分がつぶれないようにしているのがすごいなと思いました。
児童２	ぼくも、児童１ちゃんと同じで、大切にしていると思ったのは「安全に気を付ける」です。基にしたのが教科書の資料③の写真と、その下の説明です。実験を繰り返して、人が乗っている部分がつぶれないように工夫して、安全が守られるように考えてつくっているのが分かったからです。
児童３	ぼくが選んだ人にやさしい車づくりのための工夫は「安全で絶対事故をおこさない」です。なぜかというと、教科書の資料③と資料集②④の写真、さっきのVTRの開発の様子を見て、人間が運転ミスをしても事故を起こさないための工夫がたくさん開発されてきているからです。
児童４	ぼくが選んだ人にやさしい車づくりで大切な言葉は「簡単に乗れる」です。資料集８６ページの②①の写真の様に、椅子が回転したり、体の不自由な人でも簡単に乗り込めるように色々工夫してあったからです。

５　考察

手立て１では、自動車会社が、人にやさしい車づくり、環境にやさしい車づくりで工夫していることを多くの児童がしっかり捉え、短い文章で書くことができた。手立て１の活動前にノート左ページに調べて分かった事実を分類・整理して記入させたことで、資料から読み取った情報を基にしながら考えることができるようになった。一部に、まだ長い文章で書いてしまっている児童もいたので、短い文章または単語で表すという約束の確認を徹底することが必要だった。

手立て２では、ほとんどの児童が自分の考えた文や言葉の根拠となった資料を示しながら友達と伝え合うことができていた。また、その資料から感じたこと、人々の工夫に対して感心したことなども合わせて伝えることができる児童が多くなった。手立て１で考える根拠となる事実を記入させておくことで、交流活動の際に自信を持って根拠を伝えることができるようになった児童も多くなった。

ノートの左ページに課題と事実を記入させ、ノート右ページに考えとまとめを記入させるように指導したことで、児童は考えを分かりやすく整理できるようになってきた。資料の番号を全てノートに記述できていない児童も若干見られたので、必ず根拠となる資料の番号を書くという約束をしっかりと確認し、継続して指導していく必要がある。また、実際に友達に伝える際に、ノートではなく教科書や資料集を見せながら伝えている児童もおり、ノートの活用という部分では課題が残った。今後、発表時の形式などをはっきり示し、全員がノートを活用しながら交流できるよう指導していく必要がある。